



エコアクション21
認証登録番号0000978

2018年度環境経営レポート

(対象期間:2018年4月～2019年3月)

資源の道を拓く



2019年8月8日発行



株式会社 江合

目 次

I 組織の概要	
1. 経営方針	1
2. 会社概要	2
3. 事業内容	
1) 事業部門の内容	3
2) リサイクルプラントの事業内容	4
3) 事業の実績	5
4) 資格取得状況	6
4. 対象範囲ならびに実施体制・役割分担	
1) 対象範囲	7
2) 事業場全体の実施体制図	7
3) 役割一覧	8
II 環境経営方針	9
III 環境経営目標	
1. リサイクルプラント部門	10
2. 合同事務所部門	11
3. 土木部門	11
IV 環境経営目標の実績	
1. リサイクルプラント部門	12
2. 合同事務所部門	12
3. 土木部門	12
4. 輸送部門	12
2018年度実績値のグラフ	13
V 環境活動計画とその取組結果と評価並びに次年度の取り組み内容	
1. リサイクルプラント部門	14
2. 合同事務所部門	14
3. 土木部門	15
4. 輸送部門	15
主な活動紹介	16
VI 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無	
1. 産業廃棄物収集運搬・処分業部門	17
2. 土木部門	17
VII 代表者による全体の評価と見直し・指示	18

I 組織の概要

1. 経営方針

【 理 念 】

時代の波を機敏に捉え、関わる全ての人々に
幸せをもたらす必要不可欠の企業であり続ける

【 行動指針 】

- 法令順守を最優先〈責〉法令を遵守し、安心で安全な業務遂行を心がけます。
- 一步先を考え行動〈積〉指示待ちの心を捨て、今何をすべきかを考え行動します。
- 和の精神生涯の財〈和〉縁を大切に、寛容・信頼・尊重を常として精励します。
- 連携の力は無限大〈連〉自分の力を最大に発揮し、連携によって可能性を高めます。
- 自らを信じて挑戦〈信〉自分を信じてあげよう、そして迷わず行動・挑戦します。

《安全方針》

『安全なくして企業なし』

「安全は我が身・家族のため」

人生を変えてしまう災害の元を見逃すな！

《環境方針》

『小さな気づきと行動の連鎖を築こう』

ちょっと気づいたらちょっとの行動してみよう

その積み上げが地球環境を変える

平成28年7月1日制定



株式会社 江合

代表取締役 石ヶ森 信 幸

2. 会社概要

- 【商 号】 株式会社 江 合
- 【代 表 者】 代表取締役 石ヶ森 信幸
- 【所 在 地】 989-6102
宮城県大崎市古川江合本町三丁目1番1号
TEL 0229-23-8222 FAX 0229-22-3773
MAIL info@e-ai.co.jp
- 【資 本 金】 2,000万円
- 【設 立 年 月 日】 昭和28年8月17日
- 【事 業 所】 江合リサイクルプラント
989-6228
宮城県大崎市古川清水字三丁目石田18-2
TEL 0229-26-3626 FAX 0229-25-6885
- 【環境管理責任者】 常務取締役 加藤 嘉明
- 【従 業 員 数】 6名
- 【事 業 概 要】
- ・ 産業廃棄物処分業
 - ・ 産業廃棄物収集運搬業
 - ・ 土木工事業
 - ・ 骨材販売業
- ※ (詳細は別紙事業内容参照)

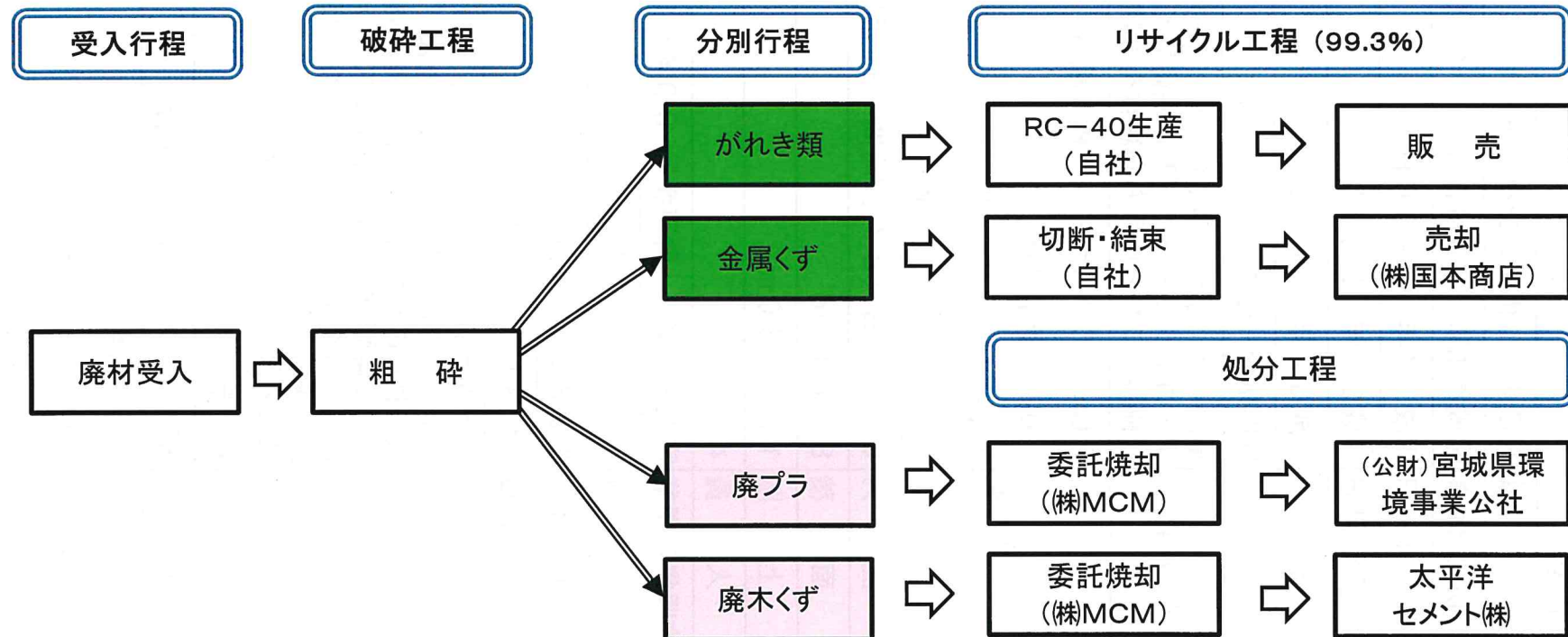
3. 事業内容

1) 事業部門の内容

江合リサイクルプラント	骨材販売業	RC40（再生コンクリート砕石）他
	産業廃棄物処分業	宮城県知事 許可番号 00425003419
	許可年月日	平成7年 3月30日
	最新更新許可年月日	平成27年 3月30日
	許可有効年月日	平成32年 3月29日
	事業区分	中間処分－破碎
	産業廃棄物の種類	金属くず（がれき類に付着したものに限る）、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類 以上3種類（これらのうち石綿含有産業廃棄物を除く。）
	設備・施設	RC-30AKライン（破碎設備）
		40トン計量台貫
		ホイールローダ 2機
		パワーショベル 2機
	処理能力	696 t/日（87 t/時間 8時間稼働）
敷地面積	8,731 m ²	
保管上限	12,250 m ³	
常駐人員	4名	
輸送部	産業廃棄物収集運搬業	宮城県知事 許可番号 00405003419
	許可年月日	平成5年 7月30日
	最新更新許可年月日	平成30年 7月30日
	許可有効年月日	平成35年 7月29日
	事業の範囲	<p>廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類 以上4種類（これらのうち石綿含有産業廃棄物を除く。水銀使用製品産業廃棄物を除く。廃プラスチック類、金属くず並びにガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くずは、自動車等破碎物を除く。） 積替え又は保管行為を除く。</p> <p>販売用骨材運搬</p>
許可車両	大型ダンプ（10t） 2台	
土木部	許可を受けた建設業	土木工事業
		とび・土木工事業
		ほ装工事業
	許可年月日	平成29年 4月20日
許可番号	宮城県知事 許可（般-29）第1109号	

2) リサイクルプラントの事業内容

《廃材の処理工程図》



3) 事業の実績

【平成30年度廃材受入量】

月	がれき類 (t)
4月	2,181.75
5月	2,567.86
6月	3,136.11
7月	3,228.63
8月	3,835.09
9月	4,829.62
10月	2,760.96
11月	2,211.94
12月	1,656.42
1月	1,965.37
2月	2,708.29
3月	1,709.64
合計	32,791.68

※処理施設の維持管理は、日々実施しております。

【平成30年度廃材運搬料】

	がれき類 (t)
収集運搬実績数量	420.2

【平成30年度土木工事】

0件

4) 資格取得状況

資格種類	人数	認定機関
車両系建設機械(整地等)運転免許	4	建設業労働災害防止協会宮城県支部
車両系建設機械(解体用)運転免許	4	建設業労働災害防止協会宮城県支部
ローラー運転免許	3	(株)日立建機教習センタ茨城教習所
職長等安全衛生教育	3	中央労働災害防止協会 東北安全衛生サービスセンター
安全衛生推進者	1	宮城労働基準協会
玉掛技能講習	2	宮城労働基準協会
石綿取扱作業従事者特別教育	1	建設業労働災害防止協会宮城県支部
基安発0520第1号に基づく 足場の点検実務者研修	1	安全衛生教育センター
小型移動式クレーン運転免許	1	小野リース(株)仙台教習センター
不整地運搬車	1	(株)日立建機教習センタ宮城教習所
労働安全衛生管理員	1	宮城労働基準局
安全推進員	1	宮城労働基準局
危険予知訓練課程	1	宮城労働基準協会古川支部
大気関係第4種、公害防止管理者	1	産業公害防止協会
産業廃棄物処理業の許可申請(新規) 収集運搬過程	3	日本環境衛生センター
産業廃棄物処理業の許可申請(新規) 処分過程	2	日本環境衛生センター
産業廃棄物中間処理施設技術管理者	1	日本環境衛生センター
大気関係公害防止管理者	1	東北通商産業局
水質関係第4種、公害防止管理者	1	全国生コンクリート工業組合連合会
採石業務管理者	4	宮城県
一般粉じん関係公害防止管理者	1	日本砕石協会
破碎・リサイクル施設技術管理士	1	日本環境衛生センター

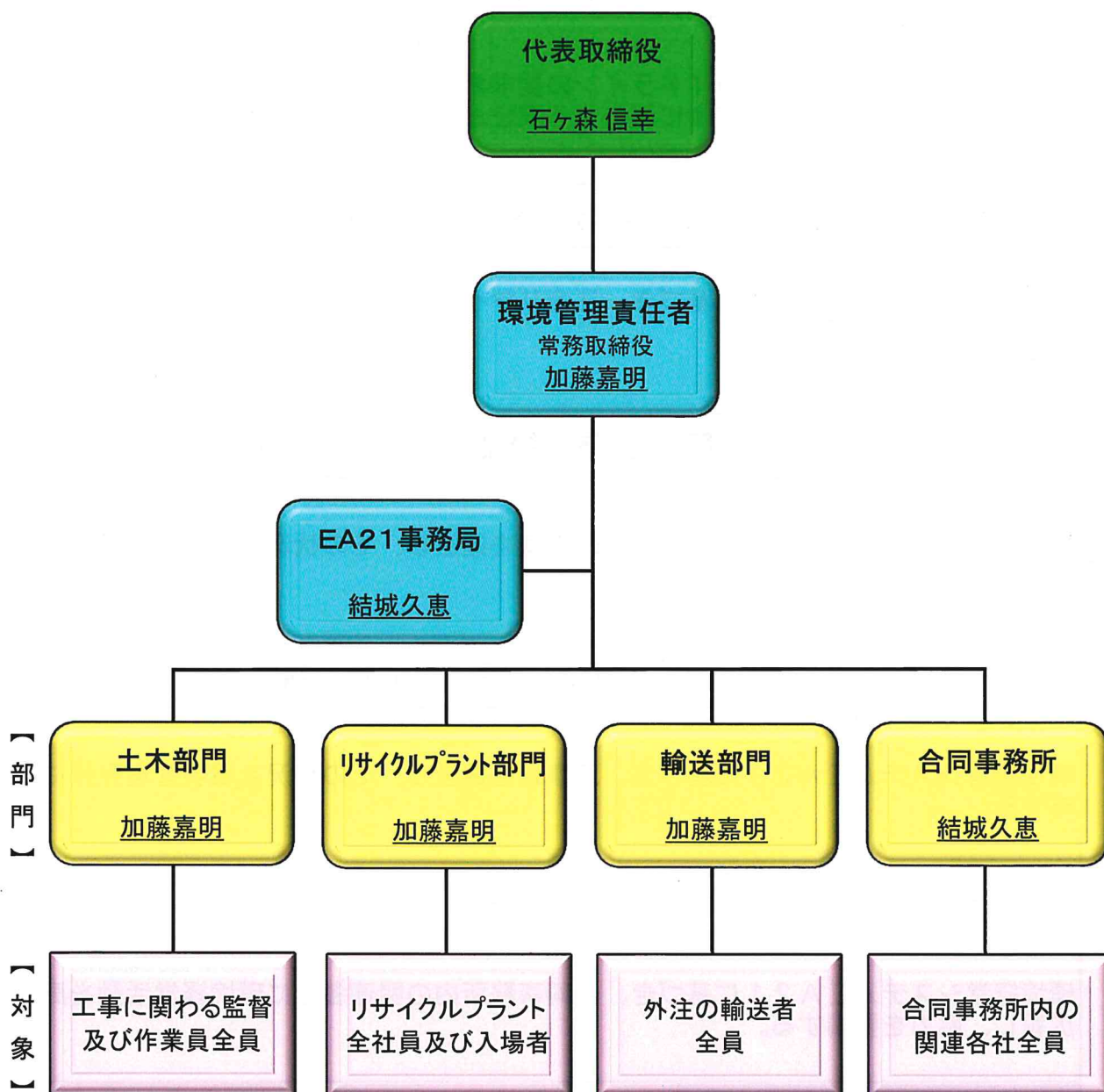
4. 対象範囲ならびに実施体制・役割分担

1) 対象範囲

全組織、全活動を対象にします。

2) 実施体制

EA21 実施体制図



3) 役割一覧

E A 2 1 代 表 者	代表取締役 石ヶ森 信幸
<p>経営責任者。代表者は経営理念・環境理念を策定し、環境方針・環境目的を策定・全体の評価と見直し、環境管理責任者を任命する。又、環境への取り組みに必要な人員・設備・費用等を適切に準備する。</p>	
環 境 管 理 責 任 者	常務取締役 加藤 嘉明
<p>代表者に代わってE A 2 1 ガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築・運用し、その状況を代表者に報告する責任と権限を有することとする。</p>	
リサイクルプラント部門	常務取締役 加藤 嘉明
<p>環境経営システムE A 2 1に基づき、江合リサイクルプラントを運営し、その状況を環境管理責任者に報告する。 産業廃棄物処理責任者。</p>	
輸 送 部 門	常務取締役 加藤 嘉明
<p>環境経営システムE A 2 1に基づき、輸送班を運営し、その状況を環境管理責任者に報告する。</p>	
土 木 工 事 部 門	常務取締役 加藤 嘉明
<p>環境経営システムE A 2 1に基づき、工事範を運営し、その状況を環境管理責任者に報告する。</p>	
合 同 事 務 所	結城 久恵
<p>環境経営システムE A 2 1に基づき、合同事務所内の関連各社に環境経営活動を周知広報し、協力を要請する。</p>	
E A 2 1 事 務 局	結城 久恵
<p>環境経営システムE A 2 1の広報・周知・データ管理など、E A 2 1全般の事務を行う。</p>	

II 環境経営方針

制定 2009年 4月28日

改定 2016年 4月 1日

株式会社 江 合 経営理念

‘安全なくして、企業なし’

【 環 境 理 念 】

経済活動と環境の両立を目指し、私たちができることを一つ一つ積み上げ、未来への責任を果たす。

【 環 境 方 針 】

当社は複数の事業部門を持つ業務形態の中、主要のリサイクルプラントによる循環型社会へ向けた環境活動を通じ、全社一丸となり持続可能な社会作りに取り組むこととする。

1. リサイクルプラントにおける『廃材を資源に変える』リサイクル事業を推進し、
循環型社会の構築に貢献する。
2. 各事業部門にて、省資源・省エネルギーの推進と環境負荷の少ない資材等の購入を積極的に推進し、低炭素社会の構築に貢献する。
3. 各事業部門にて、環境関連法規等を遵守し、地域や自然との調和をはかり、自然共生社会の構築に貢献する。



株式会社 江 合

代表取締役 石ヶ森 信幸

Ⅲ 環境経営目標

1. リサイクルプラント部門

リサイクルプラントの環境目標は、再生骨材生産1トン当たりの環境負荷として策定します。

	単位	基準値	2019年度 目標値	2020年度 目標値	2021年度 目標値
購入電力の 二酸化炭素排出量	kg-CO2/ t <small>基準値は、排出 係数を2018年版 に置き換えて再 計算したもの</small>	2018年4月 ↓ 2019年3月 0.352	0.348 (1%削減)	0.345 (2%削減)	0.341 (3%削減)
灯油使用による 二酸化炭素排出量	kg-CO2/ t	2018年4月 ↓ 2019年3月 1.51	1.502 (0.5%削減)	1.495 (1%削減)	1.487 (1.5%削減)
軽油使用による 二酸化炭素排出量	kg-CO2/ t	2018年4月 ↓ 2019年3月 2.66	2.633 (1%削減)	2.607 (2%削減)	2.580 (3%削減)
BDF使用による 二酸化炭素排出量 の削減	kg-CO2/年	軽油使用量の 5%相当	削減効果 5%/年	削減効果 5%/年	削減効果 5%/年
産業廃棄物排出量削減	t	<ul style="list-style-type: none"> ・がれきを破碎し再生骨材を生産していますが、排出する産業廃棄物は搬入されたがれきに付着している廃プラや木くずです。 ・自ら削減することはできませんので、環境目標は策定せず、数量の把握と搬入業者へ付着物の除去を呼びかけることとします。 			
水使用量の削減	ℓ	<ul style="list-style-type: none"> ・上水道は使用していません。地下水を使用していますが、計測しておりませんので環境目標は策定せず、使用量の削減に努めることとします。 			
化学物質使用量削減	—	<ul style="list-style-type: none"> ・化学物質は使用していません。 			
グリーン購入	—	新規購入または更新時にはグリーン購入を検討します。			
自らが生産・販売する 製品に関する項目	—	<ul style="list-style-type: none"> ・RC材を生産するにあたって、重機のBDF使用量を増やすよう随時検討を進めます。 ・重機の更新を予定し燃費向上を図ります。 			

※今回より購入電力の二酸化炭素排出係数は、東北電力2018年版「0.528」としました。

◎年2回以上、会社周辺等の環境整備のために清掃活動を実施します。

2. 合同事務所部門

本社は合同事務所として使用しており、極力他社の協力も得るよう努めます。

	単位	基準値	2019年度 目標値	2020年度 目標値	2021年度 目標値
購入電力の 二酸化炭素排出量	kg-CO2/年	2018年4月 5 2019年3月 64,707.05	64,383.51 (0.5%削減)	64,059.98 (1%削減)	63,736.44 (1.5%削減)
LPG使用による 二酸化炭素排出量	kg-CO2/年	2018年4月 5 2019年3月 3,209.10	3,193.05 (0.5%削減)	3,177.01 (1%削減)	3,160.96 (1.5%削減)
ガソリン使用による 二酸化炭素排出量	kg-CO2/年	8127.2	今回から社長車分が増えるため排出量自体の減少は困難であるため、走行km当たりの改善に努めます。		
一般廃棄物排出量削減	kg	91.4	90.0 1.5%	88.6 3.0%	86.8 5.0%
産業廃棄物量削減	kg	排出はありません。			
水使用量の削減	ℓ	合同事務所として使用しており、他社の使用変動が大きい為メーターの比較が困難な現状。よって、節水活動を呼びかけることとする。			

3. 土木部門

建設工事は数が少なく規模も不定なので、環境目標は策定せず、建設工事を実施した際は環境負荷の把握を行います。

IV 環境目標の実績

1. リサイクルプラント部門

	単位	2018年			評価	要因
		目標値/ t	実績値/ t	実績値/年		
購入電力の 二酸化炭素排出量	kg-CO2	0.279	0.316	14174.86	△ 目標未達成	破碎機の摩耗によるものか？
灯油使用による 二酸化炭素排出量	kg-CO2	2.00	1.51	67678.18	○ 目標達成	搬入量が増加し、生産量も増加した。
軽油使用による 二酸化炭素排出量	kg-CO2	3.5	2.66	119376.1	○ 目標達成	搬入量が増加し、生産量も増加した。
BDF使用による 二酸化炭素排出量	kg-CO2	—	—	削減効果 2,482.17	○	
産業廃棄物排出量削減	t	がれきを破碎し再生骨材を生産していますが、排出する産業廃棄物は搬入されたがれきに付着している廃プラや木くずです。自ら削減することはできませんので、環境目標設定対象には適しません。				
自らが生産・販売する製品に関する項目 (清掃活動)	—	年2回以上	2回実施	—	○ 目標達成	継続
水使用量の削減	ℓ	・上水道は使用していません。地下水を使用していますが、計測しておりませんので環境目標は策定せず、使用量の削減に努めることとします。				
化学物質使用量削減	—	・化学物質は使用していません。				

2. 合同事務所部門

	単位	2018年			評価	要因
		目標値/年	実績値/年	実績値/年		
一般廃棄物量削減	kg	81.4	—	91.4	△ 目標未達成	事務所内の整理をした為。
ガソリン使用による 二酸化炭素排出量	kg-CO2	10,646.7	—	8,127.2	○ 目標達成	走行距離が減少した。

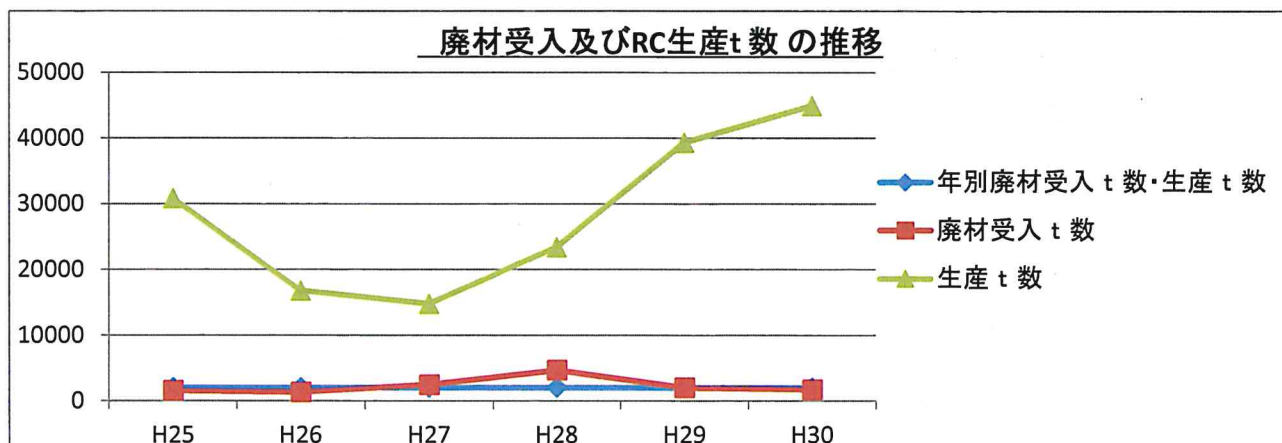
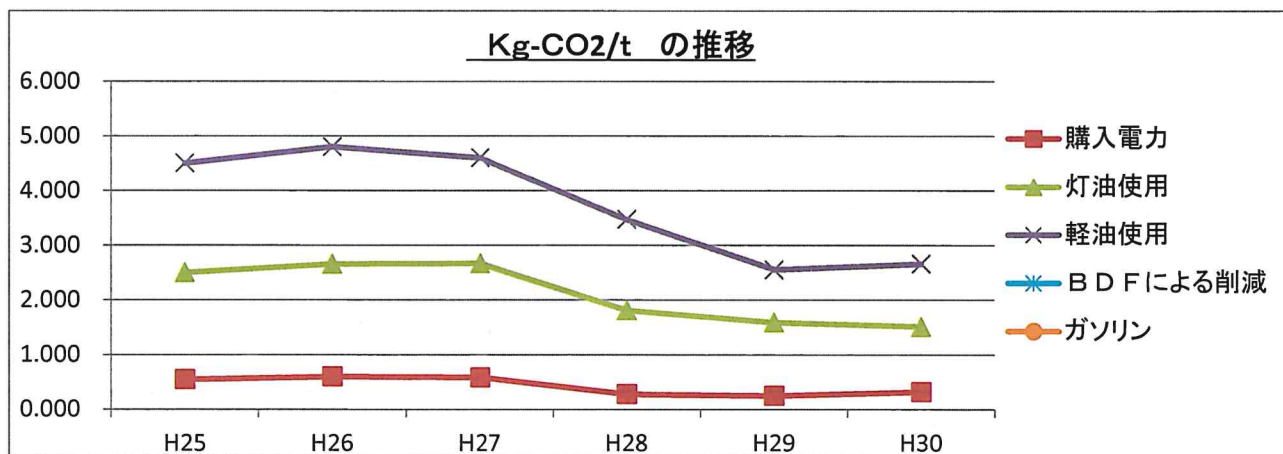
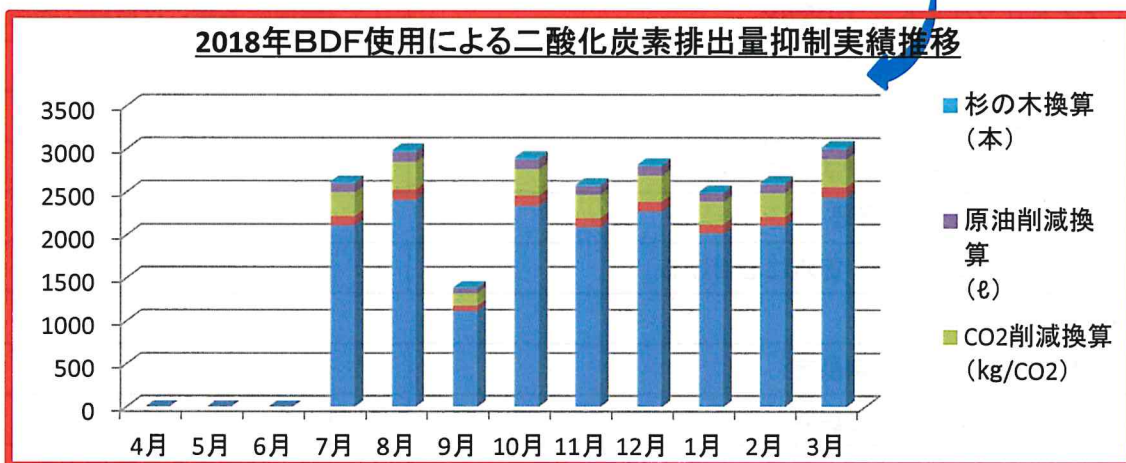
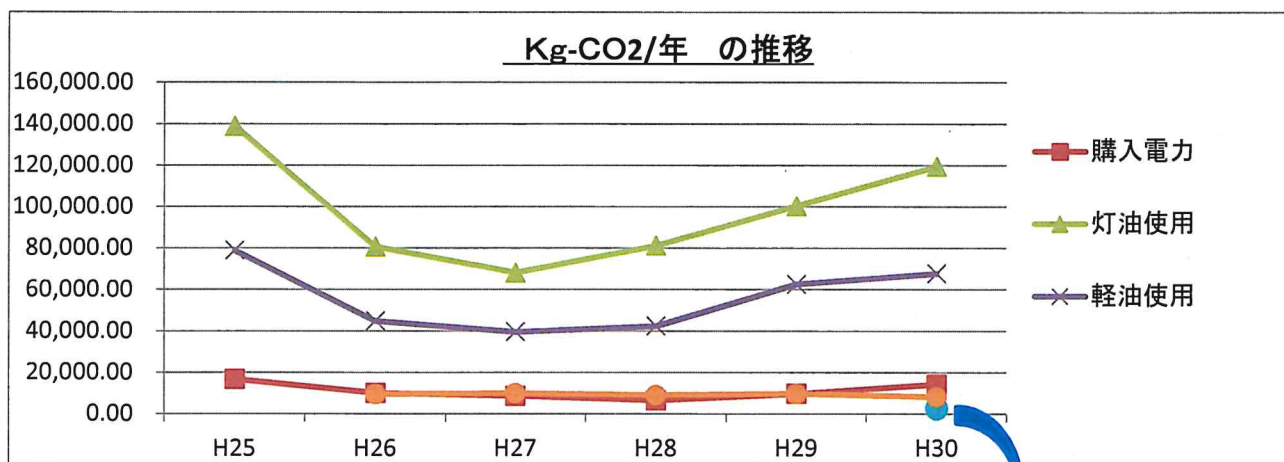
3. 土木部門

施工工事 0件

4. 輸送部門

- 1) 燃料節約…アイドリングストップの実施
- 2) 免許証・車検証等の更新時の提出…随時実施

2018年度実績値のグラフ



V 環境活動計画とその取組結果と評価並びに次年度の取り組み内容

各 項 目	評価欄	次年度の取組内容
1. リサイクルプラント部門		
1) 購入電力使用削減について		
・破碎プラントの空回しをしない	○	
・空調管理の徹底（暖房22℃・冷房27℃）	△	酷暑の場合は柔軟に運用すること
・破碎歯の定期的な正常化（肉盛）による生産性の向上	○	3回に分けて実施する
・照明のこまめな消灯（現場事務所）	○	
2) 化石燃料使用削減について		
・作業性を考慮し、無駄のない重機の場合内移動を行う	○	
・アイドリングストップの励行	○	熱中症予防には柔軟に対応する
・日常点検及びグリスアップの励行	○	
3) バイオ燃料の使用量拡大		
BDF使用機会を増やすよう努める	○	通年のデータ取得と分析。
4) 地下水使用量の維持管理		
・こまめに蛇口を閉め、節水に心掛ける	○	
5) 環境教育・訓練計画		
・環境経営システム運用教育	○	
・運用に係る手順書等の説明	○	
・想定緊急事態対応教育・訓練（火災・作動油飛散）	○	消火訓練を8月実施する
6) 校内整備活動計画		
・構内パトロール（施設点検日誌）にて毎日実施	○	
・リターンローラーの下を作業終了後に泥上げする	○	
・周辺地域との共生作業として、周辺の草刈り作業の実施	○	
・周辺地域との共生作業として、搬入路の清掃作業の実施	○	
2. 合同事務所部門		
1) 排出するごみの量を計測して削減する		
	○	
2) 購入電力使用削減について		
・不要な照明は消灯する。	○	廊下は半分、昼休みは消灯
・電気製品買い替えの場合、節電対策製品購入の推進	○	
3) 化石燃料（LPガス）使用削減について		
・空調管理の徹底（暖房22℃・冷房27℃）	○	酷暑の場合は柔軟に運用すること
4) 水道使用量削減について		
・トイレの流水音発生器を導入し、使用徹底の上節水する	○	
・給湯室や足洗いの無駄な水道利用を控える	○	
5) 訓練計画		
・想定緊急事態対応教育・訓練（火災）	○	消火訓練を8月実施する

各 項 目	評価欄	次年度の取組内容
3. 土木部門（受注工事に関しての購入電力使用量・化石燃料使用量・二酸化炭素排出量のデータを取り、これらの削減に努める）		
1) 化石燃料使用削減について		
・現場移動の効率化	-	
・使用重機による化石燃料使用量の削減	-	
・エコドライブの実施	-	
・アイドリングストップの励行	-	
2) 産業廃棄物排出量の削減について		
・使用量の数量をチェックし、余剰材料を減らす	-	
・分別を徹底し、100%リサイクルの維持	-	
・適正な処理を実施するためマニフェストの管理を徹底する	-	
4. 輸送部門（江合輸送部は外注なので、実施にあたり各運転者に要請する形で行う）		
1) 現在行っている燃費の削減活動を維持する（アイドリングストップ）	○	
2) 業務管理上において、免許証等の更新時に随時提出する	○	
3) 緊急時対応策を定め、周知する	○	年1回実施

主な活動紹介

BDF燃料給油状況

5%のバイオ燃料混合軽油使用開始。
今後通年で使用することとしています。



無災害記録7,000日目指して

R2年(2020年)の7,000日達成に向けて
日々安全作業に心がけています。

無災害記録目標 7,000日
 安全作業スローガン
 少しの工夫で大きな安全
 危険予知で我が身を守る

平成31年 3月12日現在 **6620日**
 記録開始日 平成7年 4月1日

作業区分	達成状況		達成率
	達成日数	目標日数	
※作業準備内・後方の安全確認	○	○	○
※足場組立の禁止	○	○	○
※飛び降り・飛び乗り禁止	○	○	○
※足元スリッパ(足袋)着用(滑・逆)	○	○	○
※転落・墜落回避	○	○	○
※巻き込まれ・はさまれ防止	○	○	○
※落とす・つかり注意	○	○	○
※作業現場安全帯と記入注意	○	○	○
※作業開始前(班内確認)	○	○	○
※作業完了後(班内確認)	○	○	○

株式会社 江合



Ⅵ 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無

1. 産業廃棄物収集運搬・処分業部門

環境法規等名称	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	○

以上の遵守状況を確認した結果、問題ありません。
また、訴訟等も過去3年間ありません。

2. 土木部門

環境法規等名称	遵守状況
建設リサイクル法	—
騒音規制法	—
振動規制法	—

施工件数0件につき、対象外

Ⅶ 代表者による全体の評価と見直し・指示

○環境システムの評価

1. 軽油のBDF導入について、CO2削減に向けた大きな課題としていたが、詳細な検討の結果導入に至り、良い結果を出している。
2. 小さな数値だが事務所のゴミなどの計量も欠かさず実施している。
3. 隣地への粉塵飛散を防ぐために、RC生産の際に旗により風向きを見て作業中断も行っており、また夏場では構内散水をこまめに行っており粉塵飛散防止対策が適切である。

以上を中心に、取組み続ける意識の定着が見られる。システムの有効性の証と評価する。

○環境システムの見直し

1. データ解析方法の精度向上を目指す。
 - 1) 本年度も中間評価会議を実施してこまめな対応ができるよう努める。
 - 2) 過去3年間を振り返り、データ解析方法の改善点について検討する。
2. 身近なところからの取組みを更に広げる。
3. BDF導入が実現したが、加えて老朽重機の更新を目指して燃費向上を図る。
4. アイドリングストップの柔軟適用について
夏季の熱中症には十分な注意を払うこと。エアコン使用、水分補給、塩分飴の使用を明確に指示して防止し、災害ゼロ7000日を目指すこと。